

「青年部」として事業を開始 鳥取県鉄構工業会・次世代の会 通常総会を開催



倭島会長

鳥取県鉄構工業会の次世代の会(会長Ⅱ高橋健二・高橋専務、会員数11人)は5月28日、倉吉市のセントパレス倉吉で定例会を開き、今年度から青年部として事業を開始することを決めた。会長に倭島考史氏(和島鉄工所専務)、副会長には西原泰仁氏(大昭建工専務)が就任した。

当日は通常総会を開催し、①会員同士の情報交換や交流会で親睦を深め業界の発展に寄与する②若者らしく何事にも挑戦し「地域発展」に努める——の2項目を方針とする事業計画案を審議・可決した。主な事業として、①各会員企業の製品や技術を組合HPで紹介②技術講習会③事業を通じ



「青年部」が始動

た親睦強化——などを推進する。具体的には溶接ロボットの講習会などを計画している。今後は中国ブロックや全国鉄構工業協会青年部会の事業にも参画していく予定だ。

●PRポスター配布で協議／三重県鉄構工協組・青年部会 三重県鉄構工業協同組合・青年部会(会長Ⅱ渡邊純平・渡辺鉄工専務)は5月29日、津市内の組合会議室で定例会を開催し、今年度の事業活動などを中心に協議した。

冒頭、渡邊会長は「先に開催された総会では全議案に対する満場一致の可決に感謝申し上げたい。コロナ禍ではあるが、可能な限り

倭島会長は「コロナ対策を取りつつ新しいことに挑戦していきたい」と抱負を述べた。

定例会では初めに親会から鉄構業界PRと人材確保対策として依頼があった地元高校へのポスター配布で協議。その結果、各地域に分け、該当地域の会員が分担して当該校を訪問し、説明していくことを確認した。

次に今年度は全国鉄構工業協会青年部会・中部ブロックの合同研修会の担当が三重県となっていることから、その内容について意



今年度の事業活動などを協議

見交換。7月開催の同ブロック役員会までにまとめることとした。そのほか、来年度と同ブロックの運営委員長(三重県担当)の人選や現在の受注、単価動向について報告した。

埼玉県鉄構業協組

「固形タブ技量付加試験」

溶接技能者15人が受験

埼玉県鉄構業協同組合(理事長Ⅱ新井公雄・アラコウ会長)は5月28日、川越市の鉄構会館で「固形エントタブ技量付加試験」を実施した。

同試験は、組合が埼玉県や地元設計監理団体の承認を得て02年から毎年行っ

確保などコロナ対策が施される中、実技試験に臨んだ。実技終了後には組合技術委員会本部委員と埼玉県溶接協会担当者立ち会いのもと、その場で外観検査が行われ、全員が合格した。この後、試験体は第三者試験検査機関に送られ、放射線透過試験及びマクロ試験の結果をもって最終合格が決定する。結果発表は6月下旬ごろの予定。



溶接技能者15人が受験

ニュースフラッシュ



岡村部会長

●書面で通常総会を開催／高知県鉄骨構造協組・青年部会 高知県鉄骨構造協同組合・青年部会(部会長Ⅱ岡村康一・岡村鉄工社長、会員数16人)はこのほど、第11回通常総会を書面決議により開催した。

今年度は「コロナ禍などの影響を受けて需要の端境期にある状況では会員相互の協力体制の構築が必要」との認識のもと、①最新の技術や機械の勉強会②構造研究会との交流③工場認定のサポート——などの事業を実施する。また、共済事業の推進やノズルチップの収集(全国鉄構工業協会青年部会のボランティア事業)のほか、ウェブ会議の運用も進めていく。

岡村部会長は「今後はウェブ会合も交えつつ情報や最新技術を共有し、知識の向上を図っていくとともに親睦を深めたい」と述べた。